

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/04/01

## キプロス資本規制の悪影響は

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	↓	日・欧の「弱さ比べ」だが・・・ 予想レンジ: 115.00～123.50円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	↓	欧州懸念継続、米景気動向がカギに 予想レンジ: 1.2450～1.3150ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	→	日銀会合の結果をまずはチェック 予想レンジ: 139.00～146.00円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	→	英米の金融政策の方向感は？ 予想レンジ: 1.4800～1.5400ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



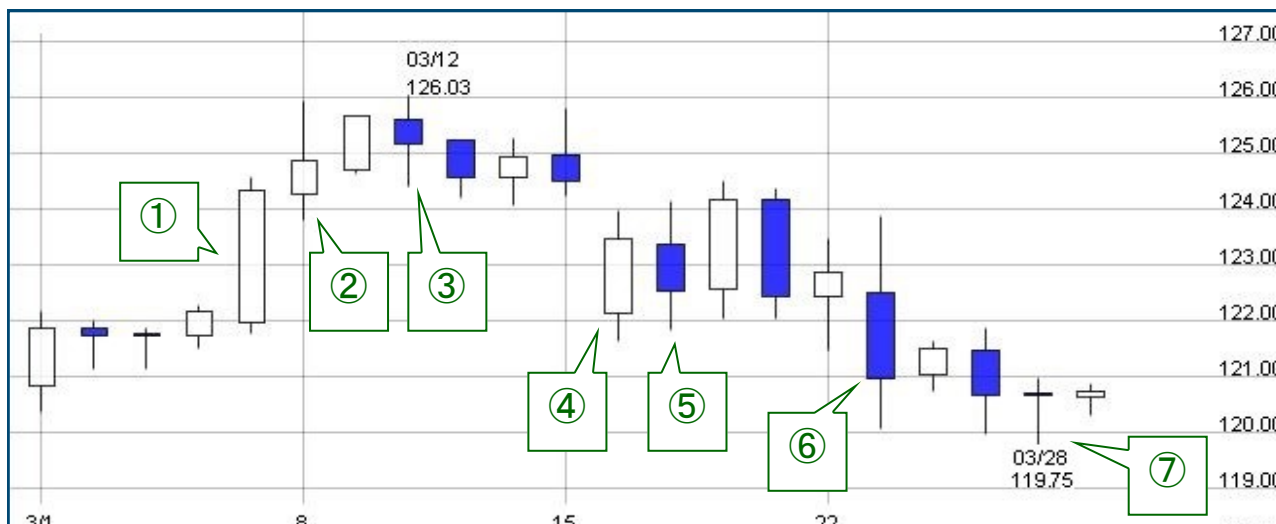
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	120.83	126.03円	119.75円	120.74円



①	7日、欧州中銀(ECB)が政策金利の据え置き(0.75%)を発表すると、一部に利下げを予想した向きもあった事からユーロが小幅に上昇。さらにドラギ総裁が「経済活動は2013年上期に安定するとデータが示唆」「イタリアから他国への感染は抑えられている」「為替レートは(金融政策の)目標ではない、ユーロ相場は長期的な平均に沿っている」などと発言するとユーロ買いが加速し124円台に上伸した。
②	8日、米2月雇用統計の好結果を受けてドル/円が上昇すると125.92円までつれ高となったが、ユーロ/ドルでドル買い・ユーロ売りが活発化した影響から急速に上げ幅を縮小。その後、格付け会社フィッチがイタリアの格付けを「A-」から「BBB+」に引下げると123.79円まで反落した。
③	12日、日本経済新聞が「黒田アジア開発銀行(ADB)総裁が、日銀総裁に就任した場合早期に追加緩和に踏み切る考えを強調」と報じた。これを受けて、日銀が3月20日の総裁就任直後に臨時会合を開催するとの思惑が浮上、取引開始直後から円売り優勢となり126.03円の高値を付けた。しかしその後「民主党は黒田総裁、中曾副総裁の人事案には賛成するが、岩田副総裁の就任には反対する」との報道を受けて円が買い戻されると124.39円まで失速した。
④	18日、前週末にユーロ圏財務相会合がキプロス向けに100億ユーロの金融支援を行う事を決定。その条件としてキプロスに対し「10万ユーロ以上の銀行預金に9.9%、それ未満の預金に6.7%の課税」を行う事を提示した事を嫌気してオセアニア市場で121.15円まで下落した。しかしその後はユーロ圏が支援条件を緩和する可能性があるとの報道やデトリアデス・キプロス中銀総裁が「ECBは議会が預金課税案を承認すればキプロスに流動性をもたらすと誓約」と発言した事を受けて123円台へ反発した。
⑤	19日、キプロス議会が支援と引き換えに求められている預金課税についての法案が否決されるとの見方からユーロが軟調に推移。さらにサリス・キプロス財務相が辞任するとの報道も追い打ちをかけると121.82円まで下落した。しかしその後はキプロス財務相が辞任報道を否定した事をきっかけに買い戻しが入った。また、キプロス議会は預金課税法案を反対36票、賛成なしで否決したが、ユーロ買戻しの流れが続き122.70円台まで反発した。
⑥	25日、EU大統領、欧州委員長、ECB総裁とキプロス大統領の間で支援策について大枠合意した事を好感して123円台に上昇するも、ユーログループのダイセルブルーム議長が「キプロスの銀行再編計画はその他のユーロ圏のための雛型とみなされるべき」と発言すると失速し120.07円まで下落した。
⑦	28日、連立組閣に向けた協議が難航しているイタリアの国債利回りが上昇した事や、独3月失業者数が1.3万人増と予想(0.2万人減)よりも弱い結果となった事が嫌気され、119.75円の安値を付けた。

## EUR/JPY

## 今月のポイント

3月のユーロ/円相場は119.75円～126.03円のレンジで推移し、月間の終値ベースではほぼ寄り引け同値の「往って来い」となった。上旬こそ欧州中銀の楽観姿勢や、日銀の緩和期待と米景気回復期待を背景にユーロ高・円安が進み126.03円まで上昇したが、18日の「キプロスショック」を境に潮目に変化する格好となった。3月決算期末に向けた本邦投資家のリパトリ(資金還流)観測もあって、28日には一時120円を割り込んだ。キプロス自体はユーロ圏域内総生産(GDP)のシェアが約0.2%に過ぎない小国であり、たとえ破綻に至ったとしても大規模な混乱には発展しないとの見方もあるが、今回の一連の騒動で市場が不安視するのはキプロスによる「預金課税」などの資本規制の悪影響が、他の金融システムが脆弱な国に波及する可能性がある点だ。既に、スロベニアの国債利回りが上昇するなどの影響が広がり始めており、今後のユーロ相場の重石になるとの見方が根強い。問題国における預金流出も懸念される中、欧州中銀(ECB)の姿勢が4月のユーロ/円相場の焦点のひとつとなりそうだが、ECBは4日に定例理事会を開催するが、政策変更は見込まれないもののドラギ総裁の会見は前回に比べ、先行きの見通しなどについてハト派的な内容となる可能性があるだろう。もっとも、日銀も同じく4日に金融政策決定会合を開催し、黒田新総裁が「量的・質的の両面から大胆な金融緩和」を打ち出すとの期待が強い。4月のユーロ/円相場については、基本的にはユーロと円の「弱さ比べ」の構図となりそうだが、短期的なリスクとしては、欧州金融不安の拡大と日銀の金融緩和に対する「材料出尽くし感」を意識せざるを得ないだろう。(神田)

(予想レンジ:115.00～123.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

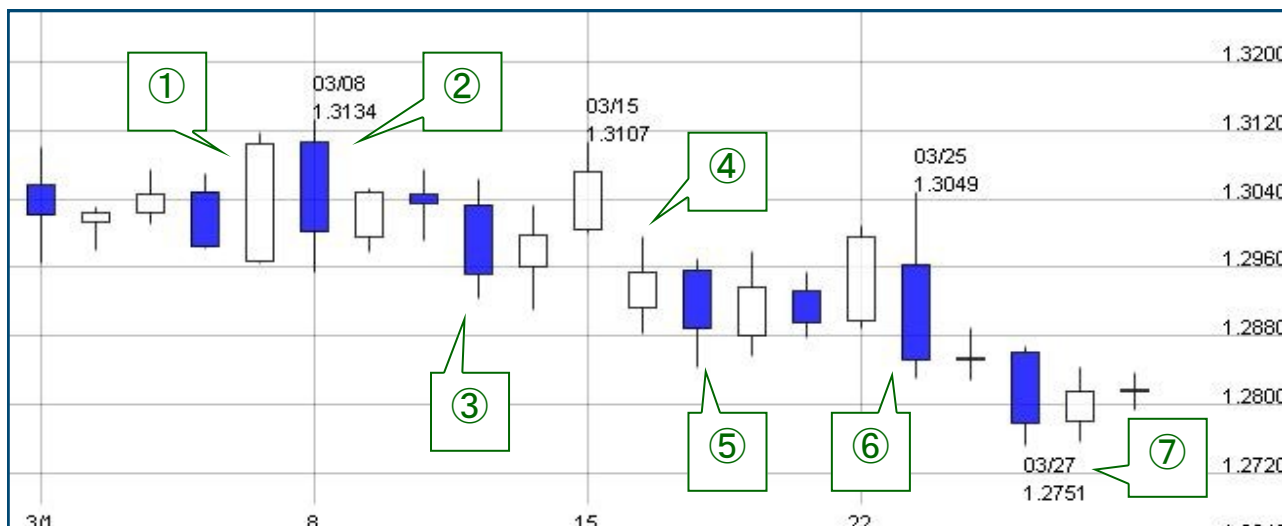
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(月)	日銀短観	4/12(金)	3月米小売売上高
	3月米ISM製造業景況指数	4/16(火)	4月独ZEW景況感調査
4/2(火)	2月ユーロ圏失業率		3月米住宅着工件数
	3月独消費者物価指数・速報	4/18(木)	3月本邦通関ベース貿易収支
4/3(水)	3月ユーロ圏消費者物価指数・速報	4/22(月)	4月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	3月米ADP全国雇用者数	4/23(火)	4月独PMI製造業・速報
4/4(木)	日銀金融政策決定会合(3日～)		4月ユーロ圏PMI製造業・速報
	欧州中銀金融政策発表	4/24(水)	4月独IFO景況指数
4/5(金)	2月ユーロ圏小売売上高		3月米耐久財受注
	3月米雇用統計	4/26(金)	日銀金融政策決定会合
4/8(月)	2月本邦経常収支・貿易収支		第1四半期米GDP・速報値
	2月独鉱工業生産	4/30(火)	4月独雇用統計
4/12(金)	2月ユーロ圏鉱工業生産・季調済		4月ユーロ圏消費者物価指数・速報

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3056ドル	1.3134ドル	1.2751ドル	1.2818ドル



①	7日、欧州中銀(ECB)が政策金利の据え置き(0.75%)を発表すると、一部に利下げを予想した向きもあった事からユーロが小幅に上昇。さらにドラギ総裁が「経済活動は2013年上期に安定するとデータが示唆」「イタリアから他国への感染は抑えられている」「為替レートは(金融政策の)目標ではない、ユーロ相場は長期的な平均に沿っている」などと発言するとユーロ買いが加速し1.31ドル円台に上伸した。
②	8日、米2月失業率が7.7%(予想7.9%、前回7.9%)に改善、2月非農業部門雇用者数は前月比23.6万人の増加と予想(16.5万人増)を上回った。これを受けてドル買いが強まると1.2955ドルまで急落した。
③	13日、米2月小売売上高が前月比+1.1%と予想(+0.5%)を大幅に上回るとドル買いが活発化。NYダウ平均の軟調推移も重石となり1.2923ドルまで下値を拡大した。
④	18日、16日にユーロ圏財務相会合がキプロス向けに100億ユーロの金融支援を行う事を決定。その条件としてキプロスに対し「10万ユーロ以上の銀行預金に9.9%、それ未満の預金に6.7%の課税」を行うよう求めた。これを嫌気して前週末の終値を100ポイント超下回る水準で取引を開始し、その後1.28ドル台まで下値を切り下げた。しかしその後はユーロ圏が支援条件を緩和する可能性があるとの報道やデメトリアデス・キプロス中銀総裁が「ECBは議会が預金課税案を承認すればキプロスに流動性をもたらすと誓約」と発言した事を受けて1.30ドル目前まで反発した。
⑤	19日、キプロス議会が、支援と引き換えに求められている預金課税についての法案を否決するとの見方からユーロが軟調に推移。さらにサリス・キプロス財務相が辞任するとの報道も追い討ちをかけると1.2843ドルまで下落した。しかしその後はキプロス財務相が辞任報道を否定した事をきっかけに買い戻しが入った。また、キプロス議会は預金課税法案を反対36票、賛成なしで否決したが、ユーロ買戻しの流れが続き1.292ドル台まで値を戻した。
⑥	25日、EU大統領、欧州委員長、ECB総裁とキプロス大統領の間で支援策について大枠合意した事を好感して1.30ドル台に上昇するも、ユーログループのダイセルブルーム議長が「キプロスの銀行再編計画はその他のユーロ圏のための雛型とみなされるべき」と発言すると失速し1.2830ドルまで下落した。
⑦	27日、連立組閣が難航しているイタリアに格付け引き下げの噂が広がるとユーロ売りが優勢に。そうした中、同国が実施した国債入札で落札額が目標に到達しなかった事が判明するとユーロ売りに拍車がかかり、1.28ドルを割り込んだ。また、一部通信社が「キプロスの資本規制は小切手の現金化や3000ユーロ以上の現金海外持ち出しを7日間禁止、資本規制は全ての口座や通貨に適用へ」と報じた事もユーロ売り材料となり1.2751ドルの安値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/USD

## 今月のポイント

3月のユーロ/ドル相場は1.2751ドル～1.3134ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.9%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。18日にユーロ圏が決定したキプロス支援をめぐる混乱と2月の選挙後1カ月が経過しても政権が発足しないイタリアの政局混迷がユーロの重石となった事は言うまでもないが、米国の景気回復期待に伴うドル高もユーロ/ドルを押し下げる要因となり、27日には約4カ月ぶり安値となる1.2751ドルまで下落した。

キプロス問題については、金融機関の破たん処理に伴う損失負担を預金者にも求めるという前代未聞の措置が取られた事から、他の問題国でも預金流出が顕在化するのでは、との懸念が広がっている。また、イタリアでは、先の選挙で第1党となった中道左派連合が主導する形での連立政権樹立が困難になっており、夏場以降に再選挙が行われる可能性が高まっている。

こうした不安に加え域内景気の回復が進まない点も考慮すると、当面ユーロ相場の下値警戒ムードは続きそうだ。テクニカル面からもユーロ/ドルは3月下旬に20日移動平均線を割り込んでおり、下落圧力がかかりやすい局面にあると言える。こうした中、ドル高基調が続けば節目の1.25ドルを割り込む可能性が高まるだけに、米国の景気回復度合いを確認する意味でも、米3月雇用統計(5日)や3月小売売上高(12日)などの結果が注目される。(神田)

(予想レンジ:1.2450～1.3150ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(月)	3月米ISM製造業景況指数	4/16(火)	4月独ZEW景況感調査
4/2(火)	2月ユーロ圏失業率		4月ユーロ圏ZEW景況感調査
	3月独消費者物価指数・速報		3月米消費者物価指数
4/3(水)	3月ユーロ圏消費者物価指数・速報		3月米住宅着工件数
	3月米ADP全国雇用者数		3月米鉱工業生産
	3月米ISM非製造業景況指数	4/17(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)
4/4(木)	欧州中銀金融政策発表	4/22(月)	4月ユーロ圏消費者信頼感・速報
4/5(金)	2月ユーロ圏小売売上高	4/23(火)	4月独・ユーロ圏PMI製造業・速報
	3月米雇用統計	4/24(水)	4月独IFO景況指数
4/8(月)	2月独鉱工業生産		3月米耐久財受注
4/10(水)	米FOMC議事録(3月19・20日分)	4/26(金)	第1四半期米GDP・速報値
4/12(金)	2月ユーロ圏鉱工業生産・季調済	4/29(月)	4月独消費者物価指数・速報
	3月米小売売上高	4/30(火)	4月独雇用統計
4/15(月)	4月米ニューヨーク連銀製造業景気指数		4月米消費者信頼感指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP/JPY

## ポンド/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	140.33円	145.87円	139.10円	143.15円



①

7日、カーニー次期英中銀(BOE)総裁が就任に伴い、BOE内での権限が拡大する可能性が報じられたことを受け、朝からポンド売りが先行した。ただ、BOEが市場の1/4が資産買入枠拡大を予想をする中で金融政策を据え置くと、ポンドは急騰。さらに、米新規失業保険申請件数の好結果を受けたドル/円の上昇もポンド/円を押し上げた。

②

8日、米2月雇用統計で、失業率が7.7%、非農業部門雇用者数が前月比23.6万人増と予想(7.9%、16.5万人増)より大幅に強い結果となりドル/円が上昇すると、ポンド/円は144.76円まで連れ高したが、ポンド/ドルが強い米雇用統計を受けて急落したため上げ幅を縮めた。

③

14日、オプション絡みのポンド買い・ドル売りによってポンド/ドルが急上昇するとポンド/円も上昇した。英FT紙でカタルが英公共事業に投資する可能性を伝えたこともポンド買いを後押しした模様。

④

15日、夕方、まとまった規模のユーロ買いによってユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れ高。前日のNY市場でキングBOE総裁が「為替相場の水準を決めるのは市場であって我々ではない、ポンド安誘導を目指していないことは確かだ」等と述べたこともポンドの買い材料視された模様。ただ、その後は米3月NY連銀製造業景気指数や米3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値の弱めの結果を受けてドル/円が下げると、ポンド/円も失速した。

⑤

20日、夕方、金融政策委員会(MPC)議事録発表前のポジション整理等によってポンドは下落。発表されたMPC議事録では金融政策の投票バランスは変わらずだった上、一部の委員から追加緩和策が不当なポンド安を招くリスクがあると指摘されたこと等もありポンドは反騰した。その後、英予算演説にてオズボーン財務相が緊縮財政路線の維持を表明する一方、国内総生産(GDP)見通しの引き下げ、減税を表明、さらにBOEがより柔軟な金融政策を行える公算が大きくなった点や、キプロス等欧州問題への懸念を示したことなどから、より刺激的な政策期待が高まり、一旦ポンド安に振れる場面も見られた。もっとも、全般的なリスクオンムードの中ですぐに切り返した。

⑥

21日、英2月小売上高指数(除自動車燃料)が前月比+1.9%と市場予想(+0.6%)よりも大幅に良好な結果だったことを受け、ポンドは買われた。しかし、ユーロ圏高官の「キプロスの大手行の清算が必要となるだろう」「金融セクターが崩壊ならキプロスはユーロ圏からの離脱を強いられる可能性がある」との発言によるリスク回避ムードが強まり、ポンド/円は失速した。

⑦

25日、ユーログループのダイセルブルーム議長が「キプロスの銀行リストラ計画は、その他のユーロ圏のための雛型と見なされるべきだ」と述べた(後に本人が否定)と報じられると、他の問題国についても金融不安が波及するのではとの不安が拡がり、ポンド/円は141.90円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 今月のポイント

3月のポンド/円相場は139.10円～145.87円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.9%の上昇(ポンド高・円安)となった。

3月のポンド/円は日銀の追加金融緩和に対する期待感を受けた円安と、英中銀(BOE)の追加金融緩和観測が後退したことなどを背景するポンド高が進む一方、キプロス発の欧州債務問題再燃によるリスク回避ムードが拡がり、ポンド/円の上値を抑えることとなった。

4月はまず、3-4日に行われる黒田新日銀総裁の下で行われる初の日銀金融政策決定会合で、日銀が市場の追加金融緩和の期待を裏切ることなく政策決定を行い、さらにその先の緩和期待を維持できるかが焦点となる。ここで対策が市場の期待より小さいものに留まったり、材料消化感が拡がるようなメッセージを打ち出してしまえば、これまでの円売りの巻き戻しが起こる可能性があるため、要注意だ。期待を裏切らない、かつその後の期待まで維持することができれば、円の先安観が拡がり、ポンド/円には下支え要因となるだろう。一方、英国については、先月に後退した追加緩和期待が復活するかどうか焦点になる。4日に金融政策委員会(MPC)が発表する金融政策や、17日発表のMPC議事録、その他経済指標などから緩和期待が高まればポンドの売り要因、先月に続き、緩和期待が後退すればポンド買い要因視されよう。

もちろん引き続き、欧州債務問題に関する報道を受けて拡大・縮小するリスク許容度も、他のクロス円と同様にポンド/円相場の波乱要因になる。関連報道には常に気を配る必要がある。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 139.00～146.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

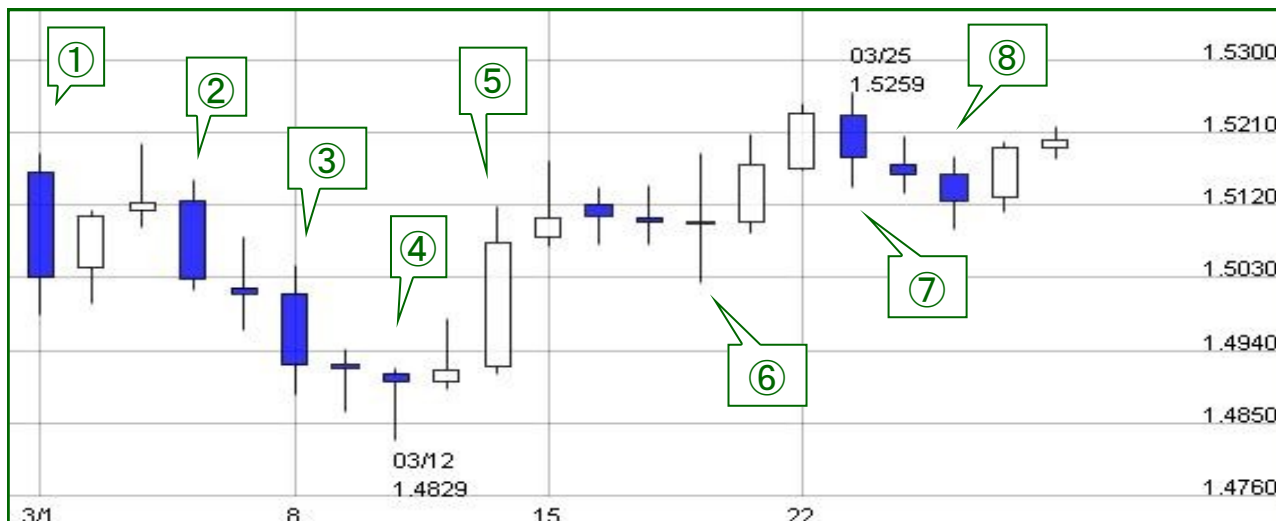
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(月)	3月米ISM製造業景況指数		2月英鉱工業生産
4/2(火)	3月英PMI製造業		2月英商品貿易収支
4/3(水)	3月英PMI建設業	4/16(火)	3月英消費者物価指数
	3月米ADP全国雇用者数		3月英生産者物価指数
	3月米ISM非製造業景況指数	4/17(水)	BOE議事録
4/4(木)	日銀金融政策決定会合(3日～発表)		3月英雇用統計
	3月英PMIサービス業	4/18(木)	3月日通関ベース貿易収支
	BOE政策金利発表		3月英小売売上高指数
4/5(金)	3月米雇用統計	4/25(木)	第1四半期英GDP・速報値
4/8(月)	2月日経常収支	4/26(金)	日銀金融政策決定会合(発表)
	2月日貿易収支		第1四半期米GDP・速報値
4/9(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月6・7日分)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/USD

## ポンド/ドル 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5160ドル	1.5259ドル	1.4829ドル	1.5201ドル



- ① 1日、英2月製造業PMIが47.9と市場予想(51.0)を大幅に下回る結果となったことを受けたポンド安や、米2月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が77.6と速報値(76.3)から上方修正されたこと、米2月ISM製造業景況指数が54.2と予想(52.5)を上回ったことを受けたドル高により、1.4984ドルまで値を下げた。
- ② 6日、米2月ADP全国雇用者数が19.8万人増と予想(17.0万人増)を上回り、前回分も上方修正(19.2万人増→21.5万人増)された。これを受けてドル高が進行した。
- ③ 8日、米2月雇用統計において、失業率が7.7%、非農業部門雇用者数が前月比23.6万人増と予想(7.9%、16.5万人増)より大幅に強い結果となると、ポンド/ドルは1.4884ドルまでドル高が進んだ。
- ④ 12日、中国株の軟調さや、英1月鉱工業生産が前月比-1.2%と予想(+0.1%)に反してマイナスだったことを受けて1.4829ドルまで下落した。ただ、その後はユーロ/ドルがまとまった規模の買いで反発したことに連れて切り返した。
- ⑤ 14日、オプション絡みのポンド買い・ドル売りによって急上昇。カタールが英公共事業に投資する可能性が報じられたこともポンド買いを後押しした模様。さらに、著名シンクタンクの「来週の米連邦公開市場委員会(FOMC)では金融緩和方針は維持される」とのレポートを背景にドルが売られると、ポンド/ドルは一段と上昇した。
- ⑥ 20日、夕方、金融政策委員会(MPC)議事録発表前のポジション整理等によってポンドは下落。発表されたMPC議事録では金融政策の投票バランスは変わらずだった上、一部の委員から追加緩和策が不当なポンド安を招くリスクがあると指摘されたこと等もありポンドは反騰した。その後、英予算演説にてオズボーン財務相が緊縮財政路線の維持を表明する一方、国内総生産(GDP)見通しの引き下げ、減税を表明、さらにBOEがより柔軟な金融政策を行える公算が大きくなった点や、キプロス等欧州問題への懸念を示したことなどから、より刺激的な政策期待が高まり、一旦ポンド安に振れる場面も見られた。もっとも、全般的なリスクオンムードの中ですぐに切り返した。
- ⑦ 25日、ユーログループのダイセルブルーム議長が「キプロスの銀行リストラ計画は、その他のユーロ圏のための雛型と見なされるべきだ」と述べた(後に本人が否定)と報じられると、他の問題国についても金融不安が波及するのではとの不安が拡がり、ポンド/ドルは値を下げた。
- ⑧ 27日、BOEのFSA(銀行監督庁)が「銀行による資本増強の進展は鈍化しており、投資家の信頼感は依然低い。銀行は資本バッファーを300億ポンド程度強化すべき」との見解を示したことでポンド売りが強まった他、欧州株の下落も重石となり、1.5091ドルまで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP / USD

## 今月のポイント

3月のポンド/ドル相場は1.4829ドル～1.5259ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.2%の上昇(ポンド高・ドル安)と、ほぼ横ばいと言ってよい結果になった。

3月のポンド/ドルは上旬、米国の強い経済指標結果と、英中銀の近い将来の追加金融緩和期待を背景とするポンド売りによって軟調に推移していたが、著名シンクタンクのレポートによって3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での「緩和姿勢維持」見通しが打ち出されたことや、実際にFOMC声明や米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長からも出口を示唆する言葉がなかったことなどから、やや買われていたドルが再び売られた感がある。一方、追加緩和期待が強まっていた英中銀(BOE)については、3月の金融政策委員会(MPC)では一部の緩和期待に反して政策据え置き。かつ、議事録から、追加緩和を主張したメンバーが2月から増えておらず、4月の追加緩和期待が後退した面もあり、ポンド/ドルは反発した。ただ、欧州債務問題への懸念が強く、これがポンド/ドルの上値を押さえた形となった。

4月については、改めて英米の経済指標結果を確認しつつ、両国の金融政策の方向感を探っていく展開になるだろう。英国は追加緩和、米国はどちらかと言えば引き締め方向を睨んではいるが、発表される経済指標を眺めて変化する市場の思惑に対して、「実際の金融当局の考えはどうか」その乖離を、4日の英金融政策委員会(MPC)や10日のFOMC議事録、17日のMPC議事録などから窺っていくものと見る。また、引き続きキプロスやイタリアなど、欧州問題国についての報道も波乱要因となってくるだろう。特に、金融市場全体のリスク要因として関連報道が認識された場合、ポンド/ドルには下押し圧力となる。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.4800～1.5400ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(月)	3月米ISM製造業景況指数	4/16(火)	3月英消費者物価指数
4/2(火)	3月英PMI製造業		3月英生産者物価指数
4/3(水)	3月英PMI建設業		3月米鉱工業生産
	3月米ADP全国雇用者数	4/17(水)	BOE議事録
	3月米ISM非製造業景況指数		3月英雇用統計
4/4(木)	3月英PMIサービス業		米地区連銀経済報告(ページブック)
	BOE政策金利発表	4/18(木)	3月英小売売上高指数
4/5(金)	3月米雇用統計		4月米フィラデルフィア連銀景況指数
4/9(火)	2月英鉱工業生産	4/23(火)	4月米リッチモンド連銀製造業指数
	2月英商品貿易収支	4/24(水)	3月米耐久財受注
4/10(水)	FOMC議事録(3月19・20日分)	4/25(木)	第1四半期英GDP・速報値
4/12(金)	3月米小売売上高	4/26(金)	第1四半期米GDP・速報値
	4月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	4/30(火)	4月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。